

8-2

楽しいおやつ作りに挑戦

「認知症の方」と、そうでない方が一緒に楽しく調理する

食事

調理の楽しみ

ていきーびすせんたー ふろうのまど
 デイサービスセンター 不老の郷

看護師 山崎 政枝

介護職 林 のり子

東京都西多摩郡瑞穂町箱根ヶ崎 182-1

介護職 高谷 とも子

042-568-2671

kaigo@furounosato.org

042-568-2672

http://furounosato.org

単独型通所介護

横田基地に隣接する瑞穂町、人口は約3万4千人余。高齢化率は17%。その中心地に定員30名の単独型の当デイサービスセンターが位置しています。開設2年を経過し、日常のサービスへのアプローチを研究発表いたします。

〈取り組んだ課題〉

1. 認知症があるのみで家族から疎外され自宅では調理することが出来ないと悲しんでいた。
2. 認知症の方とそうでない方が一緒に楽しく調理していただくには、
3. 利用者様が立派に調理できる事をご家族様を知っていただくには、

〈具体的な取り組み〉

1. 管理栄養士を交えて利用者様の声を聴き検討を重ねた。
2. 昔、利用者様が調理してきたものに挑戦するのが一番良いのではないかと結論に至った。
3. 先ず、どの様なものを調理していたのかを調べた。又、現在何を作りたいか調べた結果・・・
 ・手打ちうどん ・草団子 ・柏餅 ・そば ・めし餅
4. その中で利用者様と一緒に指導しながら作れる職員がいるのか。
5. 認知症の方とそうでない方が楽しく調理するのはどうするかを職員全体で話し合い検討を重ねた。
6. 利用者様が一番作りたいものから作る事となった。
7. 利用者様が作ったことのある食べ物を一つ一つを職員がそれぞれ指導することになった。
8. 費用は「おやつ代」ですむ程度とした。
9. 調理した食べ物はその場（おやつに時間に合わせて調理）楽しく食べていただくことにした。
10. 利用者様の健康状態を把握した上で調理教室に参加をしていただいた。

〈活動の成果と評価〉

1. 昔、作ったことがある食べ物なので、認知症の方の方がそうでない方より調理しているうちに思い出したように話し始め手早く作業をしていた。思案していたことが吹っ飛んでしまい調理中は笑顔と会話がはずみとても楽しい雰囲気となり作品も上出来でした。
2. 認知症のある利用者様担当のケアマネージャーさんにおいて頂き、試食をして頂きながら作ったものにまつわる思い出話を全員でしていたところ、「戦時中はなかなか食べられずにご馳走」とおひとりが話されたところ、その言葉に皆さんが戦時中の色々な出来事をお話になり懐かしい思いに一つ時を過ごした。
3. ご家族様には調理した実態を連絡帳でご報告したところ、それぞれのご家族様からは、うちのおばあちゃんが作ることが出来たのとの喜びの声があった。
4. 昔、作ったことのある食べ物を作ったことに喜び、昔懐かしい話しを目を輝かせて話して下さった認知症の方の生きがいがかここにあったのかと職員一同感極まった思いがしました。

〈今後の課題〉

1. 今回は昔作った食べ物を中心に調理したが徐々にレパートリーを増やしていった時に認知症の方が作っていかれるのかを考えてみる。